

614) 災害対応

小生は猫 2 匹と円満な家庭生活を満喫している。しかし一番心配なのは地震や台風などの天災である。ことに東関東と熊本で起こった震災にかんがみて、そのための防災にはかなり意を用いている。特にペットは避難所では嫌われ者になるので、そのために 1 週間程度の車中生活ができるようにポンコツのエルグランドに乗っている。非常時でも、足を伸ばして眠れる大きさがあるからである。この中には猫のトイレや、食料も用意しているし、毛布や着替えも常時しまっている。そればかりではなく、非常用にテントも一張り用意している。もちろん災害時には何時も問題になるガソリンは、常時クルマに満タンにしているし、小生の常備薬は先生に話して、1 カ月分余分にしまっている。それだけではない。当座の現金や、米や缶詰などの食料も同様で、米は常時 10 キロ分しまっている。ところが問題は小生の記憶力である。何をどこにどれだけしまっておいたか、しばしば忘れてしまう。毛布やパンツは 2 年や 3 年、どこかに眠っていても、たいした問題にはならないが、米 10 キロを 1 年持たせるには容易ではない。いつも新しいものを購入するたびに古い方を消費してゆかなければならない。ところが先日、物置部屋の段ボールを空けたら、この中から米 10 キロが出てきた。それも 2 年以上前のものらしい。古米どころか古古古米である。あちこちに虫に食われた後がある。虫はどうやらビニール袋も食いちぎって脱出したようで、そんな食痕が所々に残っている。当然、米粒の周辺部もいたく変質していて、食用にはなりそうにない。当然捨てるべきと思ったが、ふと過日の 3 年前のビールがえらくうまく変質していたことを思い出して、捨てる前に一口味わってからにしようと考えを変えて、その晩 3 合だけ炊いてみることにした。しかしこの米の研ぎカスたるや、半端なものではなかった。それでもせっせと研いでいるうちに、研ぎ汁が綺麗な透明に変わってきた。まるで、酒を作る際に周辺部をそぎ落として真ん中の部分を用いるのと同じような状態になってきたのである。タイマーを 6 時にセット、水分を幾分多めに設定して、炊き上げてみると、これが不思議や不思議、普段食べている米と、まったく差のない炊き上がりになったのである。

先日の牛乳といい、今回の米と言い、我々はとかく見た目や、感覚で、食料を廃棄している。しかし実際に味見をしてから廃棄すべきと察したしだいである。ウーム、このボケ頭もヨクヨク研げば、マダマダ使用できそうだ。